優勝者レポート
インカレロング大会
2004年11月7日

坂本 筑波）雪辱晴らす

坂本貴史

インカレのロング種目が今年から秋に動いた。この第1回目の大会で優勝した坂本貴史（筑波大学 4）から感想が届いた。

念願の優勝を果たした坂本。長い準備と会心のレースで、満面の笑顔がこぼれる。

2年前 ･因縁のテレイン

みなさん祝福してくださり、どうもありがとうございます。その後の運営やメールなどで「おめでとう」と声をかけてくださる方がたくさんいて、とても嬉しいです。

今回の愛知インカレロングは、一連のインカレ改革の、初めての実施例です。インカレ改革を初めて聞いたのは、私が2年の時です。そのとき意識したのは、インカレが変わるということは、インカレに向けた準備も大きく変わるだろうということです。そして同時に、インカレ改革は私が4年の時、つまり最後のインカレで行われるという事も意識しました。つまり、私のインカレロング2004に向けた意識は、すでに2年の時から始まっていたのでした。

しかし決定的だったのは、同じ年の愛知インカレのリレーで、マップアウトから始まる一連の大失敗をしてしまったこと、その結果、勝機薄い筑波大学の敗退が決定的となってしまったことでした。とても悲しかったし、悔しかったし、どうしようもない感覚を今でも覚えています。あの時、満足したいのなら、最後までトレーニングし続けなければならないという事を学びました。

しかしこういった経験が、その後のJWOC2003、WUOC2004につながっていると思いますし、今の競技者としての自分がある気がします。そして、今回のインカレロング2004で使用されたテレイン「田代・田折」こそ、その経験のもととなったテレインだったのでした。

目標は全日本

今年の私は、全日本選手権大会で1桁台の順位を取ることを目標にしています。そのため当初は、インカレロング2004を全日本エリート権を獲得する大きなチャンスとしてとらえていて、6位入賞が目的でした。しかしあるとき言われたのが「全日本大会でその目標を達成するなら、インカレで優勝またはそれに近い順位である必要がある」という事でした。それまでは確実に入賞するくらいの準備をしていることに対する自身があったのですが、これを聞いてからは「勝機があったら優勝するが、失敗しても入賞は確実。完走すれば結果は出る。」と方針を変えました。

ケガとの闘い

しかし、インカレまで決して順調だったわけではなく、8月中旬のトレイルランニング中に山道の路肩が崩れ、斜面で左足を強く踏み込んだため、強烈な捻挫をしてしまいました。1週間ほど歩けないくらい患部は大きく腫れあがり、その後の東北大学大会、関東学連学年別選手権など主要な大会も、満足のいく結果は得られませんでした。ようやく復調してきたとき、インカレまでもうのこり1ヵ月というところでした。

しかし、調査者としても参加した岩手大学大会で思いのほか体力的な衰えが少ないことを実感し、むしろ自分の感覚が研ぎ澄まされているような感覚を覚えました。おそらくトレーニングしたいけど満足に出来ない時期に、気分転換やつくば大学リレー大会の報告書作成、WUOC2004の反省など、それまでやろうと思ってもなかなか出来なかった事を消化することで、自分の感覚が徐々に鋭くなっていった気がします。

また、走る事が出来ないため、バイクトレーニングなどを入れたり、何よりも「体を動かす、オリエンテーリングをする欲求」が強まった気がします。

心をつないだ学生連盟

そして最後に自分を後押ししたのが、インカレロング2004を成功させるために、たくさんの人達が尽力しているということでした。自身は日本学連のウェブサイト管理をして、日本学連のウェブでの情報発信を作り上げましたが、日本学連のMLを通して、たくさんの人達がこのインカレに関係しているということをリアルタイムで知る事ができました。そして私は優勝することに、初めて前向きになれたのでした。

就職活動や卒業研究と研究室、自身の進路や一人暮らしの生計など、自分をネガティブにさせる要因はたくさんありました。しかしそんな時、自分をポジティブにとらえ、トレーニングそのものもポジティブにとらえ続けました。忙しいのは誰しも同じで、その中でどのように工夫を重ねることができるのか。ほんの少しでもそれを積み重ねること、自分の境遇や状態を悲観する事なく、自分の視点を常に前に向かせ、切り開いていくこと。今回の成績を収めるために、成績以上のたくさんのことを学び、そして2年来の思いを遂げることができました。今回の勝利を通じて、後輩のみんなに、そして4年生のみんなに、自分への可能性をもっと強く感じてもらえたら嬉しいです。

（筑波大学 坂本貴史）

インカレロング2004
2004年11月7日（日）愛知県下山村

男子選手権

1	坂本貴史	1:22:57	筑波4
2	高橋雄哉	1:23:07	図書館情報3
3	前田裕太	1:24:41	東京工業4
4	後藤大輔	1:26:13	東北3
5	小野田剛太	1:27:04	京都4
6	山下智之	1:27:10	東京農工4

女子選手権

1	原 直子	1:05:43	東京女子3
2	朴峠周子	1:13:54	日本女子3
3	峯村綾香	1:16:06	奈良女子3
4	志度裕子	1:19:33	東京農工3
5	桑野 文	1:20:30	京都橘女子4
6	塚八ゆかり	1:21:16	京都橘女子4